



全日本私塾教育ネットワーク

# 私塾ネット広報

<http://www.shijuku.net>

第25号（平成21年2月）



オリオンを 流れる星や 春立ぬ

副理事長 梶原 賢治

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局 石川 維雪  
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷5-32-31 学燈塾内  
TEL:03-6680-6542 FAX:03-6368-5489  
Mail:center-office@shijuku.net

理事長 鈴木 正之  
03-5743-7458  
広報部長 大住 明敬  
048 - 957-8608



## 平成20年度第2回代表者会議 山口県宇部市で開かれる

### 私塾ネットセンター事務局長 石川維雪

昨年11月に山口県宇部市で行われた、平成20年度第2回代表者会議の決定事項をご報告申し上げます。

#### 【日時、場所】

日時：平成20年11月16日（日）

午後6時30分～7時20分

場所：ホテル松田屋（山口県宇部市）

\* エリア中国の研修会の一部を利用させていただきました。

#### 【代表者会議の成立の確認】

代議員総数19名中、参加代議員8名、委任状11名

参加者：北川先生、田中先生（以上エリア中国）、

湯口先生、寺嶋先生（以上エリア四国）、

仲野先生、渡辺先生（以上エリア関東）、鈴木理事長、石川

#### 【代表者会議 決定事項】

平成20年11月16日の代表者会議において、以下の事項が全会一致で決定しました。

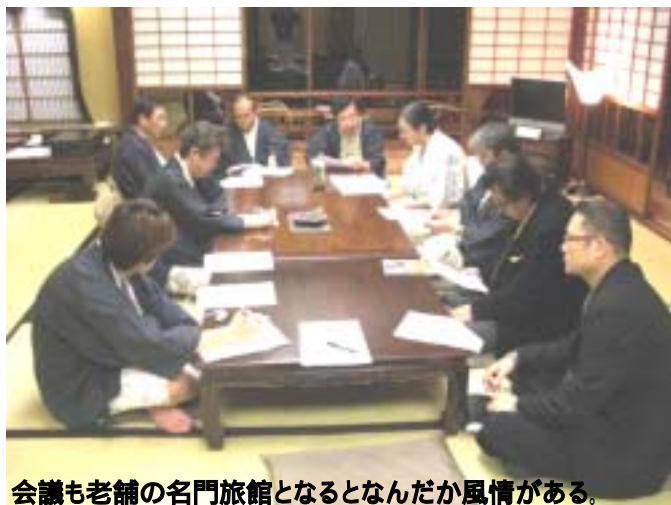
##### 1. 諸規定

##### 1) 私学・協力塾団体へのお祝い金（センター分）

- ・私学は賛助会員に限る
- ・原則1万円（最大2万円）
- ・賛助会員以外は、必要に応じてエリアや有志で対応

##### 2) 他の塾団体の行事参加費用について

- ・センター4役（名誉会長、会長、理事長、事務局長）は全額、会で負担
- 4役の代理出席も同様



会議も老舗の名門旅館となるとなれば風情がある。

- ・その他の会員の参加は半額負担
- ・対象とする行事は前もって指定。必要に応じて役員会で、変更可能とする。
- ・塾全協の全国研修大会、社団の20周年も上記に該当。  
参加各自への送金手配を事務局で行う（送金は会計部が行う）
- 3) 他のエリアへの研修会などの参加費用について
  - ・1塾あたり1万円を補助
  - ・札幌の研修会が該当、参加各自への送金手配を事務局で行う（送金は会計部が行う）
- 4) 代表者会議
  - ・従来通りエリア代表に25,000円
  - ・4役には、25,000円

#### 【理事長から代表者会議への報告事項】

以下は理事長に決定権限があるもので、代表者会議に報告されたものです。

##### 1. 役員人事

- 1) 入江先生を副理事長に選任（理事長報告）

#### 【継続検討事項】

以下は当日議論された事項で、次回の代表者会議に継続審議となったものです。

##### 1. 組織の見直しについて

##### 1) 個人会員の資格設定

エリアのないところ、エリアがあってもセンターのみに所属可とするか。

##### 2) 団体としての参加（団体会員）

慎重に検討との結論。



エリア中国の研修会に合流しての懇親会。





## 青森発！「夜スベ」の先駆け「村営塾」の実態 エリア東北 代表 畑山 篤 (青森・志学塾)

昨年末から百年に一度の経済不況というフレーズを耳にすることが多くなった。しかし、青森県では「ずーっと前から貧乏だ！」「青森県は全国の最下位だからこれ以上悪くなりようがない！」という感覚の人が多く思われる。都道府県別サラリーマン年収というデータを見れば1位の東京が約600万円で、47位の青森県が約300万円らしい。しかし、これも実感からは遠い気がする。青森県は、おいしい米、新鮮な魚には恵まれ、食糧自給率120%とも言われていて、農業、漁業に従事する人口の割合が多い。だからサラリーマンの年収で比較した地域格差以上に、金回りの渋さ、先行き不安を肌身に感じるのかもしれない。この地域では年収200万円世帯にまでターゲットを広げなければ塾は安定経営の定員を確保できないと言っても過言ではない。

さて、青森県を八戸からさらに北へ向かうと人口7,624人の村がある。実はこの村では、杉並区の和田中が「夜スベ」で話題になる前から「村営塾」を始めていた。しかし、全国にある地域再生、進学率向上などを目標に掲げての公営塾のスタートとはやや事情が異なっていた。

現村長は、先祖代々農業と漁業で細々と暮らしてきた貧しい村に、地域活性化の柱となる原子力発電所、そしてその関連する企業の誘致を着々と進めてきた。順調だった。しかし、何年経っても誘致企業への地元からの就職が進まなかった。そして、やがてその障壁となっていたものが明らかになった。それは「低学力問題」だった。誘致企業が地元の子供達を採用したくても採用できない低学力がそこにあった。

そこで、村長のリーダーシップで約700万円の予算が計上され村営塾を開校することとなった。目標は



教え魔 碓先生の真骨頂。ここにも碓式数学の信者が生まれる。



「町の学習塾」に通う生徒たちと、急きょ出前授業を行なった荒木、碓、畑山の三先生。

3年後には年間20名のトップ校合格者を輩出するというものだった。プラン通り進めば、トップ校のある県都に用地を取得し村立寮まで検討にあがっていた。

村営塾は、習熟度別に上・中・下の3クラスに編成し、きめ細かな指導を行えるよう隣接市の学習塾と提携する予定だった。塾の"連合"を作りそのメンバーの塾から輪番制のように講師を派遣してもらうプランで進んだ。しかし、塾の連合構想は隣接市市長のお声掛けりにもかかわらず最初から不調だった。競争入札にもならず、上からの推薦で、ある塾と随意契約を結ぶこととなった。

平成17年、村営の公共施設の一室で村営塾はスタートした。家庭の負担する費用はコピー代ということで月500円のみ。中学1年から3年まで7割の子ども達が受講した。ところが、随意契約の塾が数名の講師で3学年3クラス週2日をこなせるはずもなく、さらに手のかかる成績下位の子に授業を合わせたため、成績上位の子が騒ぎ出し立って歩く、まるで「学級崩壊」の状態に。保護者が見かねて交替で教室の出入口に見張りに立った。

次年度には上位層が、片道20分の隣接市の学習塾に通塾する流れができてしまった。つまり学力の下位層対象に月500円で補習指導を行っている「夜スベ」になってしまった。そして、今春、3年後の結果が問われる。

経済格差は、教育格差を生む。

教育格差は、経済格差をさらに広げる。

中3で通塾しない率が7割の青森県、秋田県、岩手県、山形県の4県は全て東北エリアにある。学校教育を含めた地域の教育に、我々学習塾がどう関わっていくのか。私は、この難しい世の中だからこそ、「なぜ学ばなければならないのか」を地域に、家庭に、そして子供達に丁寧に伝えていくことが大切だと考えている。今年こそは学習塾が中心となって「本気の教育」を東北エリアに広げて行きたいものだ。

## 子どもを育てる4つの柱

エリア四国 代表 寺嶋謙次  
(香川・学習院セミナー)



先日(2008年12月10日)、地元(香川県善通寺市)で、ある団体主催の講演会がありました。テーマは「現在一般の人々にとって興味関心のあること」と、いうことで<環境><司法><教育>の3つのテーマでの講演会でした。その中で<教育>に關しての講演の依頼があり、約1時間で地域教育についての私の考えを話しました。そのときの内容を少し紹介させていただきます。

### 混迷・衰退する日本に残された唯一の道～「人財」立国としての日本

日本は、今まさに深刻な問題に直面しています。言うまでもなく、「少子化」です。人口が減少しながら繁栄した国家は過去に例がありません。現実に、日本が世界に誇る「医療・福祉・年金制度」も崩壊しようとしています。しかも、その子どもや学生・若者が「やる気がない」「勉強しない」「働かない」では、日本の将来はいったいどうなるのでしょうか。

しかし、国土・天然資源に乏しい日本には「人」しか残されていません。すなわち、日本が目指すべきは「人財立国」であり、これこそが日本が活路を開く唯一の道なのです。そして、そのためには、未来の日本を担う子どもたちの「やる気」を「育てる」ことが不可欠であると考えます。

### 子どもたちの「やる気」を育てることは、大人の責務

まず、「学習」というものを図式化すれば次のようになります。「学習効果」＝「やる気」×「学習の質」×「学習時間」

このことは、仕事でも勉強でもスポーツでも、そして、子どもでも大人でも、同じはずです。「やる気」のない者にいくら仕事を教えても、仕事の成果は期待できません。つまり、「やる気」こそが、すべての「基本」です。

それでは、そうすれば、子どもたちを「やる気」にさせることができるのでしょうか。

まず、最初に確認しておきたいことは、本来、子どもには「やる気」は備わっている、ということです。とするならば、子どもたちが「やる気」を失っている今の現状は、大人に責任があるということです。大人たちがやる気を失わせているのです。逆に言えば、子どもたちが「やる気」を失わないように育てる責務が大人にはあるということです。

### 必要なのは、成功体験と賞賛、そして競争

では、どうすれば、子どもたちの「やる気」を育てることができるのでしょうか。

この問は、一見難しそうです。しかし、考えてみてください。我々大人が「やる気」が出るときとはどういう場合でしょうか。そうです。成功したとき、賞賛されたときです。

つまり、子どもたちに必要なことは、成功体験と賞賛なのです。そして、その成功体験を得るためには、「競争」もまた必要不可欠です。競争することで、成功する喜びと失敗する悔しさと、失敗から立ち直る方法を学ぶことができるのです。

なお、成功体験ですが、決して大きくある必要はありません。小さくていいのです。小さな努力と小さな成功体験と賞賛を繰り返すことで、子どもたちは身につけるのです。「努力することはステキなことなんだ」という考えを。そして、「夢をかたち」にする自信が芽生え、「やる気」がどんどん育っていくのです。

### 既存の指導法からの脱却～見つけるのは小さな成功

どうでしょうか、我々大人は、子どもの小さな「成功」をみつけるのではなく、小さな「失敗」を見つけていないでしょうか。それは、「結果」にばかり目を向けているからではないでしょうか。小さいけれどもがんばった「過程」を見過ごしてはいないでしょうか。

我々大人が子どもに接する場面を想像してみましょう。「テレビばかり観てないで・・・」。本当にテレビ「ばかり」見えていますか。以前より、机に向う時間が増えていませんか。「もっとやる気を出しなさい!」と言われて、あなたならやる気が出ますか。「どうして算数ができないの?」と詰問されて、あなたならうまく説明できますか。前のテストより8点上がったことを知っていますか。「たった」8点でもほめられると「やる気」が出ますよね。「うるさい」と子どもたちが言うのは、あなたが「うるさい」詰問をしているからではありませんか。笑顔を忘れていませんか。

## 高校入試変革と指導要領先取りへの対応

エリア関東 代表 仲野十和田  
(東京・ナカジユク)



埼玉県の公立高校入試が22年度(現中2生)より、大きく変わります。現在各教科40点満点ですが、これは採点負担の軽減・採点ミスの最小化など、選抜する側の都合があったのですが、受験生の正確な能力

を計りきれないということで、100点満点に変更します。また、現行より2週間(2月中旬に)ほど試験日を遅らせて、募集人数の80%を前期試験で取るようになります。東京都の高校入試に関する委員会でも、来年度より推薦試験を廃止する意見が強かったそうですが(今回は留まりました)、これ



から、高校入試は1本化されていく傾向ですね。当日の試験の比重が大きくなるわけですから、我々塾にとっては追い風ですね。

また、既に内容をご存知の方も多いと思いますが、指導要領が3年の移行措置を経て大きく変わっていきます。数学(算数)、理科が顕著ですが、特に小学校4年生の算数などは、5、6年生からの前倒しで、1.4倍近くになるとのこと。前回、3割削減したのですから、 $7 \times 1.4 = 9.8$ 。つまり4割アップさせる必要があるのですね。さらに、「PISA型能力の育成」が背景にあるので、知識の活用能力、問題解決能力を測るため記述式が増えるようで、かなりの変更量です。単純に現在行っている学習内容に移行内容がプラスされるのですが、その内容が重要なものばかりなので、塾としてもしっかり対応していかなければなりません。学校で指導時間が大きく増えたりすることはないと思われますので、ここは塾の腕の見せどころです。

今自塾では、内部生の保護者の方に具体的なお話をさせていただいていますが、兄弟姉妹に小学生をお持ちのご家庭は、時期を早めての入塾を考えてください。

4月19日は全国研修大会です。エリアの皆様にお会いできることを楽しみにしています。



## 今年もエリア中国はがんばります

エリア中国 代表 北川 健治  
(広島・栄光プレップ)



全国の皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。さて、早速のご報告となりますが、私どもエリア中国は、1月15日木曜日、広島ホテルニュー・ヒロデンで、予定通り、定例会、新春昼食会を開催いたしました。出席者は、山口恭

城、佐藤、平岡、山口哲、上原、吉長、林、北川、田中達、河浜、西本、田中弘の13名でありました。最初に、本年度の定例会などの日程調整を行いました。決定いたしましたことは、3月13日(木)広島開催定例会、5月14日(木)広島開催定例会、7月9日(木)福山開催定例会若竹塾訪問研修会、9月10日(木)広島開催定例会、11月15日(日)Xで開催(初の海外開催か?)定例1泊研修忘年会、1月14日(木)広島開催定例会、3月18日(木)広島開催定例会という日程です。(春先の生徒募集はともかく中国エリアは来年の3月までのことを年明け早々決めるのが伝統となっています。先人、長老の知恵。メンバーそれぞれが手持ちのカレンダーに日付が次々と書き込むと今年もがんばるぞ、と思うようになるから、不思議なもんです。)次に冬期講習会の経営、運営状況が各塾リレー形式で発表がありました。各塾からの成功、失敗事例はそのまま、各塾の適正、死守ラインの目標設定に直結する種類のものが多く熱心に質疑応答が交わされました。続いて新春昼食会でありましたが、どこまでが定例会でどこからが昼食会かわからないくらいに盛り上がりました。(変な話、これは毎年のことで、ああこれで今年も、無事、スタートが切れるのだなと思います。)

### 会計部からお願い

会計部長 監物一男

会員の皆様には、日頃よりいろいろとご協力いただきありがとうございます。20年度もセンター会費の徴収を行っております。つきましては、各エリアごとに、センター会費を集めさせていただきたくております。詳細は、エリア代表ないしはエリア会計担当にお問い合わせください。

エリア代表者

エリア東北 畑山篤(志学舎) エリア関東 仲野十和田(ナカジユク)

エリア中国 北川健治(栄光プレップ) エリア四国 寺嶋謙次(学習院セミナー)

又、北海道、エリア東北(青森以外)、エリア中部、エリア近畿、エリア九州に於いましては、センター会計部より、直接会費を集めさせていただきます。

尚、詳細やご不明な点は、センター会計部 監物一男(048-688-6903 向学館内)

までお問い合わせください。

【郵便振替でご送金の場合】以下の郵便口座までご送金ください。

(口座番号) 0230-6-0068820 (口座名義) 全日本私塾教育ネットワーク

【銀行振替でご送金の場合】

埼玉りそな銀行 七里支店 普通預金 4413316 (口座名義) 私塾ネット 会計部長 監物一男

以上、よろしくお願申しあげます。

## 理事長活動日誌

理事長 鈴木正之

札幌[11/2,3]私塾ネット「札幌」研修会・懇親会

9月に続いて札幌です。名誉会長の山口先生、関東からは、顧問の碓先生、長江副理事長、石川事務局長、仲野関東代表仲野、会員でありOKK理事長の木谷先生と鎌田先生、そして私と山本が札幌へ。研修会、懇親会、カラオケと楽しませていただきました。入江先生をはじめ北海道の先生方と盛り上がったという印象。来年、再会することを誓って雪の札幌を後にしました。



広島から駆けつけた山口名誉会長。お元気なご様子に一同安心。



主催者の入江先生とセンター事務局石川先生。

宇部[11/16,17]「08塾長研修」宇部進学教室：私塾ネット中国

まず一番に宇部進学教室の富田先生に感謝感謝。何から何までお世話になりました。宿泊した旅館の料理とサービスは最高でした。本当にありがとうございました。懇親会と2次会では、多くの先生方とお話しできたことが良かったです。城先生の写真と釣りの話、佐藤先生のゴルフの話はおもしろかったです。北川先生からは長老を大切にということ、そして、私塾ネットの理事長としての私へのご助言をいただきました。北川先生の熱いお言葉を受け止め、今後職を全うしたいと考えています。床についたのは3時頃、皆さんの朝食前に宿を出る慌ただしさでしたが、疲れよりも心地よさが残る会でした。

八戸[12/7,8]「2008年小中学生のための最新！入試説明会in八戸」：私塾ネット東北

1週間ほど前に参加を決定。初めての青森県でした。新幹線を降りると、関先生と石川先生が迎えに来てくれていました。そして、会場の畑山先生の塾舎へ。入試説明会は私学と教材会社も協力、畑山先生の話に参加の保護者様と子ども達が熱心に聞き入っていました。その間、我々はそば屋で食事。説明会終了後は懇親会。2次会では無理やり畑山先生の隣に座りました。畑山先生と会話が私の目的だったからです。新米理事長の私にとって畑山先生の話は、勉強不足を痛感するとともに、さらにやる気を起こさせてくれるものでした。



畑山先生の説明に高校進学のを夢を広げる受験生。



石川事務局長と談笑する本州北端の地むつ市の重鎮関先生。

東京[1/11]塾教育総合展：全国学習塾協同組合・学習塾合同新年会：NPO塾全協

総合展の実行委員として朝7時30分集合、新年の顔合わせは毎年この会なのですが、今年は例年より大忙しで、落ち着いてみなさんに挨拶ができない。竹内先生や桂馬先生、監物先生が会話をしていると、その輪に入りたくなる。安藤先生、吉田先生を見つけると一緒にいたくなる。安藤光先生とも話がしたかった。菅谷先生や秋葉先生とも話がしたかった。会員塾の職員の先生の話も聞きたかった。





夜の懇親会が元気の源。北国の魚は美味いさあこれからやるぞと意気込みが伝わってくる。



異常に盛り上がり上がっている3人。札幌の夜の魅力に取り付かれたような関東メンバーの長江・石川両氏と、これを迎え撃つは札幌入江御大。

## 入試情報研究会とは

エリア関東 岩瀬 善孝(ナカジュク)

名前は堅いのですが、目的は「塾の垣根を越えた情報交換会」です。その情報交換は、入試情報に限らず、生徒の役に立つものであれば、何でもOKです。ですから、内容は学校の情報交換だけでなく、過去問分析、教材研究、保護者や生徒面談のロールを行ったりと様々です。塾の職員が作る職員のための会です。以前は、ナカジュクと渡辺塾を中心とした数塾で行っていましたが、今年度より私塾ネット関東の研修部の一部として行っています。

前々回(平成20年11月14日)は今までの中で最も参加者が多く、16名の方に参加していただきました。テーマは「カタチに残そう!」で、中村先生(中村学院)が医療と比較され、授業も事例報告を蓄積していくことでよりいいものができるのではないかと発案してくださいました。その提案で始まったのが「入情研メーリングリスト」です。使い方は未だ試行錯誤中ですが、塾の枠を超えて、情報交換ができてきているのは事実です。参加者の中には、日本音楽高等学校の教頭先生・中野先生もいらっしや、「若い先生たちのいい勉強の場ですね。」と、ありがたいお言葉もいただきました。

前回は平成21年1月9日と冬期講習が終わって間もなく、入試直前の忙しい時期にもかかわらず、11名の方が参加していただきました。入試情報交換コー



会を取り仕切るナカジュク岩瀬先生(中央)。

ナーでは、平成22年度より新しくなる埼玉県公立入試の最新情報から裏話まで、紙面ではなかなか語れない話が聞けました。また、次の「今日から使える授業のネタ集」では、数学、英語、国語、社会に分かれての分科会を行いました。分科会では「話し足りない!」と予定時間を過ぎてても話は終わらず、その報告はメーリングリストで行うことになりました。やはり、より現場に近い内容が盛り上がるようです。

職員が作る会ということで、塾の職員が悩んでいる生の現場の意見交換ができます。この会は、皆さんの知識や経験が財産です。それをシェアすることでお互いを高め、少しでも参加前よりも元気になって帰っていただければ、僕にとってこれに勝る喜びはありません。皆様の知識や経験を今後もお待ちしています。



このような若手中心の研修グループの存在も私塾ネットの魅力でありパワーだ。可能性を感じさせる。

# 私塾ネット関東・ニューイヤーパーティー開かれる

1月25日、春節前日の横浜中華街「重慶飯店」に私塾ネットファミリー55名が集う。

平成21年1月25日日曜日、エリア関東では第4回「ニューイヤーパーティー」を横浜中華街『重慶飯店』さんのバンケットホールをお借りして行いました。参加者は会員の塾長先生はもちろん、奥様、お子様、職員を含め、総勢55名となりました。昨年まではお台場のレインボーブリッジが見える絶景のレストランで行っていましたが、今年は趣向を変えて、中華街で行いました。この会場は長江勝秋副理事長自ら、場所取りや事前打ち合わせを行っていただきました。



開会はまず仲野代表の挨拶から。

(副理事長がこういうことをやってくれるのも私塾ネットならではのですね！)

3時30分からの開場に、待ちきれなかったのか、3時にはほぼ全員が集合し、仲野十和田関東代表の挨拶で幕を開けました。乾杯の発声は、もちろん長江副理事長、そして、最初の出し物は今年のニューイヤーパーティーで谷村志厚会長が出した「2008年度予想」の答え合わせから始まりました。この「2008年度予想」とは、そのまま2008年に起こる事を予想するもので、例えば、株価は今よりも上がるか？ダルビッシュと涌井のどちらの勝ち星が上回るか？北京オリンピックで日本は何個のメダルを取るか？(あくまでも遊びです。決してオリンピック賭博ではございません！)等といったものです。そして、何よりも圧巻だったのは、2008年を表す漢字一文字は？の質問で、皆様既にご存知だとは思いますが、そう『変』という漢字で



総合司会は中村庸彦先生(川崎・中村学院)の初々しい初仕事。

すが、これをズバリ当てた方がいらっしゃったのです。その正解者は、長江勝秋先生でした。

続いての出し物は「クイズ・マドンナを探せ」です。コチラの内容は塾長先生の奥様の昔の写真をお借りし、それをスクリーンに映し出し

て誰なのかを当てるクイズです。面白かったのは、偽者の奥様にも登壇していただき、偽のエピソードを語って抱くのですが、さすが塾人の奥様！その場でそれらしい作り話をしていただきました。ちなみに、長江先生の奥様のお写真をお借りしたのですが、お若い時も美人過ぎてバレバレなのでクイズになりませんでした。

続いてのイベントは、ストリートパフォーマー『SYANさん』の風船パフォーマンスショーでした。この方は日ごろ池袋でパフォーマンスをされているそうなのですが、たまたまその前を通りかかった仲野代表が声をかけ、(日ごろからあちこちに声をかけていらっしゃるのでしょうか???)この会に来ていただくことになりました。その内容は「感動！」の一言で、次から次へと作られる風船(ミッキーマウスやポニョ、目玉親父などアニメキャラクターをそれはそれは見事に作られるのです)に文字通り目を丸くして食い入っております



SYANさんのみごとな風船パフォーマンスには、子どもも大人も大喝采！塾のイベントに最適だ。







まるでアイドル歌手のディナーショーのような光景。ご婦人に注目されてご満悦の渡辺浩さん。「クイズ・マドンナを探せ」の名司会ぶり。

た。最後には子供だけでなく大人までがそのパフォーマンスに虜になっておりました。なお、SYANさんは小さいイベントから出張パフォーマンスをしていただけるそうなので、もしご興味のある方は、仲野関東代表までお問い合わせを！

そして、最後はお待ちかね、恒例となりましたビンゴ大会。何しろ毎年景品が豪華なので、毎年参加されている方は待っていましたといわんばかりの勢いで始まりました。今年の景品はWIIはもちろん、X-BOX、MP3プレーヤー、ポータブルD

VDプレーヤーなどといったいいくらかかっているの？と疑ってしまうような品々でした。実はあまり大きな声では言えないのですが、宇宙里佳子先生のご子息、宇宙聡君にかなり頑張っていたいただいているのです。そして、今年も目玉のWIIを見事当てたのは、大住先生でした。昨年は入会したばかりの宮脇先生が当てられたので、新入会の先生に良いものが当たると思っていたのですが、今年は新入会の中村明雄先生には残念ながら当たりませんでした。スイマセン。

こうしてあっという間の2時間半が過ぎ、最後はこれも恒例になってしまったのでしょうか、仲野代表による私塾ネットビデオを流しました。1年間の私塾ネット関東活動内容や旅行に行った時の写真など（僕にとっては非常に恥ずかしい写真ですが）をビデオ形式にして作られるのですが、プロ顔負けです。こちらもお興味のある方は、仲野代表までお問い合わせください。おかげさまで、今回4回目を迎えましたが、第5回、第6回、第10回と続けてまいります。

報告 エリア関東総務部長 渡辺 浩



ビンゴ景品「Wii」をゲットして大喜びの大住君。

# 学習塾団体合同忘年会(主催・東京私塾協同組合)開かれる



2008年12月7日(日)、都内九段下のグランドパレスホテルを会場に、学習塾団体合同忘年会が開催された。出席者は私学の先生方が90名、企業関連30名、塾関係者70名の計190名に達した。私塾ネットからは谷村会長を筆頭に、安藤顧問、佐藤部長、仲野関東代表など12名を数えた。一年の締めくくりとはいえ、100年に一度の不況と称される「未曾有」の経済環境のまっただ中であって、来賓のスピーチでは手厳しい発言が続いた。私学、学習塾ともに遅からず不況の影響は避けられないとし、ともに手を携え難局を乗り越えようと誓い合った。

スピーチの一番手はやはりこの方、東京私立中高協会会長の近藤彰郎先生。都内419校の私学を束ねるお立場で、毎回痛快辛口なスピーチで会場を沸かす。



一見親子のような碓先生と関東総務部長の渡辺浩先生。



近藤先生を囲んで談笑する安藤顧問と佐藤先生。



こちらのお姫様は協同組合の長原専務理事。私塾ネットメンバーは右から仲野、渡辺、松浦の三先生。



私塾ネットのマドンナ菅谷さんをお側にご機嫌の佐藤先生と安藤、今泉先生。



# 2009年・塾教育総合展盛大に開催

主催：全国学習塾協同組合  
会場：東京国際フォーラム

全国学習塾協同組合（AJC）主催の塾教育総合展（教材教具展）が、1月11日に東京有楽町駅前の東京国際フォーラム地下展示ホールで開催された。同会場は交通の便、設備ともに東京でもとびっきりの展示場とあって、華やかな新春のイベントが期待された。私塾ネットは協賛団体として、同展示会を強力にバックアップした。というのも実行委員長の磯氏以下、谷村、鈴木、玉城、長江、浅輪、松浦といった私塾ネットメンバーが、実行委員に名を連ねていたのである。会場内に私塾ネット専用ブースも設置し、会員ばかりでなく来場者にくまなく私塾ネットの存在をアピールした。その結果、私塾ネット会員の動員数も65名と、主催者AJCに迫る結果となった。出展企業ブースは総計75ブース、セミナー会場では10テーマのミニセミナーが同時並行で実施された。だが、あまりにも広すぎる会場に、少々寂しく感じてしまうのは否めない。いくらか反省の残る展示会となってしまったようだ。



商談スペースはゆったり広々として快適な展示場。

会場に設けた私塾ネット専用ブース。対応するのは中村先生。



国際フォーラムの会議室を借りてエリア関東の定例会も同時開催。



## 2009年 学習塾団体合同新年会

塾総合展に続き、同日午後5時から学習塾団体合同新年会が開催された。新年会の主催はNPO塾全協で、忘年会は東京の私塾組合とすみ分けとなっている。展示会の流れで新年会に合流してもらうのが狙いで、塾界の新年の定番行事となっている。今年の会場はマリOTT銀座東武ホテルはなじみの薄いホテルだが、国際フォーラムの近くに会場を求めた結果である。参加者は忘年会とほぼ同数の180名。ここでやはり私学関係者が半数を超える。募集期を迎えて、私学の先生方の必死さが伝わってくる。

パーティーは新年会らしい趣向として、江戸下町木場の江戸木遣りの実演や和太鼓の演奏で幕開けであった。

私塾ネットからは鈴木理事長以下いつもの宴会メンバー十余名が勢ぞろいし、私塾ネットの存在を印象づけるとともに、私学の先生方、企業の皆さんそして他団体の塾のお仲間と交流を深めた。



協賛団体紹介で挨拶に立つ鈴木理事長。後方左より二人目は、私塾ネット会員の松浦千葉協同組合理事長。

## 贈られた言葉

エリア四国 十亀 幸雄（愛媛・そがめ塾）

愛媛県小松町教育委員会教育長であった野村東生先生とは、私が同町の埋蔵文化財発掘調査の担当者として発掘・報告書作成をしていたときからの知り合いで、今も親しくしていただいています。野村先生が教育長であったころ、私塾の教育について話したところ「貴兄の教育論に興味をもちました。参考になれば幸いです。」と信条集が送られてきました。学校長から教育長になられた方らしく、現場に精通した野村先生の信条集には耳を傾けるべきものがありました。



### 一野村東生先生の信条一

1. 授業とは、子どもへの問いかけを通じて、子どもの思考を - つの問題の追求にまで組織する仕事である。〈林竹二〉
2. 叱るのでなく、悲しむのである。ほめるのでなく、喜ぶのである。
3. 教育は人である。教育は和である。〈ある学校長の信条〉
4. これからの学力は、子どもが事実から問題を見つけて解決していく態度・能力を育成することが大切である。
5. 子どもが考えることを教師は教えることなかれ。子どもが言うべきことを教師は語るなかれ。
6. 心がなかったら、見えても見えない。聞いても聞こえない。
7. 豊かな人間性とは、思いやりとやる気(実践力)だ。
8. 教育は、地味でさわやかで 地面をはいずりまわるような根気のいる仕事である。
9. 読書の目的は、自分の理想とする人間像を心の中に確立することである。〈亀井勝一郎〉
10. 子どもの話を背中中で聞くな。
11. 卒先垂範教育は後ろ姿で。
12. やってみて、言ってみて、言ってみて、ほめてやらねば人は動かぬ。〈山本五十六〉
13. 五つほめて、三つ教えて、二つ叱る。〈野村克也〉
14. 二つ叱って、三つほめ、五つ教えて、人を育てよう。
15. 叱る = その行為が、悪いことであると教えること。怒る = 全人格を否定してしまうこと。
16. 実践のない教育は実らない。
17. 自分で考え、判断し、行動できる子を育てる。
18. 教えることは、共に希望を語ること。学ぶことは、誠実を胸に刻むこと。
19. 教えることは、希望を語り合うことである。〈フランスの詩人アラゴン〉
20. 目を見て聞き、目を見て話せ。人生は、目と目の対決である。
21. 怒るのは手っ取り早い、ほほえみには時間がかかる。
22. 情熱は自分を生かし、人を動かす。
23. 頭に手をおいて教え、手をにぎってほめ、抱きしめて叱ってやる。
24. ほめよ、認めよ、厳しさを。
25. 動くな、しゃべんな、知恵をだせ。
26. 美しい言葉 (1)ありがとう(2)さようなら(3)ハイ(4)おはよう
27. 遊びは子どものビタミンだ。
28. 愛情は知識で学ぶものでなく、与えられて学ぶ。
29. 広く、広く、もっと広く。
30. 学習を支える三つの心…(1)忍耐力(2)親切心 (3)感謝心

31. 教育には、温かさと厳しさと感動が大切だ。
32. 授業の本質は、子どもが何を感じ、どのように考えるかを促すものである。
33. 子どもに決してレッテルをはってはならぬ。
34. 教育の三原則(1)できるまで、やらせる。(2)ほめてやる。(3)自ら実行する。
35. 子どもは、教えられるより刺激されることを欲する。〈ゲーテ〉
36. 言葉をもって教えるよりは、実行をもって示せ。〈スマイルズ〉
37. 教育的あせりは、子どもを捨てることになる。
38. 人間は 教えている間に学ぶ。〈セネカ〉
39. すべての人には、その個性の美しさがある。〈エマソン〉
40. 言葉は心であり、心は言葉である。対話はホメ言葉で結べ。そうすると心をつないでおくことが可能である。
41. 子どもと、遊びたわむれることのできる人だけが、教育者となる権利がある。
42. 教育は、人間に課すことのできる最もむずかしい問題である。〈カント〉
43. 半歩、一步と進めば、半歩、一步と目的に近づく。
44. 真に子どもを大切に思う教師は、自らが卒先垂範をし、師弟同行をして、児童や教師と挨拶をし、全校遊びに運動場に出る。
45. 授業を大切に先生は、自分の盲点を見のがさない先生、子どもを変容させる先生になろう。
46. 超然と立っていられるのは、足の裏が鍛えられているからである。
47. 教師の発問は子どもの鏡である。愚問は愚動を呼ぶ。
48. 教育は、その子の天分の発見と開花を助けることである。
49. 進みつつある教師のみ、教える権利あり。
50. 見抜く先生について(1)子どもの体調 (2)子どもの服装 (3)子どもの返事 (4)子どものノート(5)子どもの遊び (6)子どもの争い(7)子どもの持ち物(8)子どもの給食

最後に、「野村東生先生の信条」を読んでの私の塾の先生の感想を添えておきます。

41の「子どもと、遊びたわむれることのできる人だけが、教育者となる権利がある。」がよかった。子どもと本気で遊べる大人はいないと思う。子どもの視点に立ち、遊び、考える人の話に対しては耳をかたむけようかと思う。(T.S 個別指導講師)

6の「心がなかったら、見えても見えない。聞いても聞こえない。」がよいと思った。逆に言えば、自分の心の持ち方次第で新たに見えること、聞こえることがあるということだと思う。それは自分自身の可能性を広げ、成長するきっかけを与えてくれるのではないか。私も心の持ち方を大切にしようと思う。(S.M 個別指導講師)



# 惜別 村社啓介先生

渉外部長 佐藤勇治

## 1、盟友・村社啓介先生



故村社啓介先生とは全国私塾連盟（略称：全塾連）以来の盟友で、社団法人全国学習塾協会と全日本私塾教育ネットワーク（略称：私塾ネット）では、共に会員として、昭和・平成の時代を共有しております。

ご承知の通り、全国私塾連盟は、昭和35年(1960)12月8日、全国ではじめて結成された学習塾団体です。その後、昭和39年(1964)2月9日、関西私塾教育連盟（略称：関私連）が、更に昭和41年(1966)5月29日、全日本私塾協会（略称：PTF / 前身は昭和38年1月結成の杉並私塾会）が設立されております。

晩年の村社啓介先生。ジャケット姿がよく似合う、おしゃべりな方であった。

「全塾連の歴史」全7巻（2470頁・平成8年～12年発行）を見ると、山口恭弘先生（広島県・山口塾）と佐藤勇治先生（東京都・調布学園）は共に昭和40年(1965)に全国私塾連盟に入会しており、村社啓介先生（埼玉県・向学館）は昭和43年(1968)6月に入会しております。従って村社啓介先生とのお付き合いは、約40年の長きに亘っております。

「全塾連の歴史」第7巻には、全国私塾連盟が昭和36年(1961)6月1日に広報創刊号を発行して以来、39年間に亘り発行した広報307号（平成12年10月28日発行）までの全巻が収録されております。

その広報の頁をめくりながら、私が最初に村社啓介先生と出会ったのは、昭和43年9月23日の秩父市での研修会であることを思い出しました。しかし、私の薄れゆく記憶より広報の記述の方が確かなので抜粋して引用、掲載することをお許し下さい。

昭和44年(1969)10月15日発行 全塾連広報 73号

「第5回研修会から“高能率な塾教育” - 国語・英語の指導法をめぐって - 」

上野駅から秩父まで

連盟第5回の教科研修会は、秋分の日(9月23日)、埼玉県秩父市で開催された。今回のテーマは国語及び英語の指導法。当日は快晴、やや暑いくらいであったが、在京の先生方は定刻11時には上野駅にほとんど集合、25分発の高田駅行に乘車した。

車中、早くも浅沼、梅田、長井先生（研修会の講師）から研修資料が配布され、僅かの時間もムダにしない熱意には一同敬服、プリントを熟読していた。

熊谷乗換えで秩父大野原着。5台のタクシーに分乗して不動湯へ向かった。なお健脚組10名程は、村社先生の引率で徒歩、一寸したハイク気分を味わった。

出席者は46名

研修会場は旅館大広間。担当の永峰先生は進行一切をひきうけて大奮闘、メガネがキラリキラリ光っている。

定刻3時。出席者を確認して直ちに開会。司会は小関先生。まず阿久沢理事長から。研修会も会を重ねることに充実してきたが、今回は46名の多数に上り、大変喜ばしい。諸講師の方々は、日頃のご勉勵のいっただんをひれきして下さって会員によき示唆を与えて下さい。（要旨）とのごあいさつがあった。

次いで永峰先生より講師の紹介と進行についての説明があり、早速、浅沼先生の講義にうつった。（以下、省略）

## 2 驚天動地 / 村社啓介先生の訃報

（1）平成20年12月20日(土)午前10時ごろ、向学館（埼玉県行田市）の村社圭一先生からお電話を頂きました。「お父上村社啓介先生ご逝去の連絡でした。」驚天動地の訃報です。私よりは若く、ご具合が悪いとも聞いていなかったからです。

圭一先生（ご長男で二代目向学館塾長）のお話では「平成20年12月19日(金)午前3時ごろ自宅で、脳溢血で倒れられ、関東脳神経外科病院に入院、緊急治療の甲斐もなく、ご家族の見守る中、12月19日午後5時8分急逝された」とのことでした。行年69歳

12月20日(土)は社団法人 全国学習塾協会の事務所はお休みで連絡が取れず、それで午前10時ごろ、私の所に連絡がありました。圭一先生には、お悔やみを申し上げると同時に学習塾団体のご連絡を私の方でさせていただくことに致しました。

早速、社団会長の伊藤先生にご連絡を入れ、その外の学習塾団体へは、全日本学習塾連絡会議の本部事務局長の立場で、FAXにて「訃報のお知らせ」を送信させて頂きました。



ご立派な祭壇と供花の数の多さに故人の徳の篤さが伺える。

## 2) ご葬儀 / お通夜と告別式

## お通夜

12月21日(日)午後6時より、埼玉県行田市の行田セレモニー会館において、故村社啓介先生のお通夜が地元の関係者300名近くが列席して執り行われました。遠路の式場にもかかわらず、学習塾団体代表として全国学習塾協同組合理事長森 貞孝氏(東京都)、全日本私塾教育ネットワーク会長谷村志厚氏(千葉県)、七味会代表石田治正氏(東京都)、社団法人 全国学習塾協会関東支部長川畑卓也氏(群馬県)全日本私塾教育ネットワーク名誉会長山口恭弘氏(広島県)、全日本学習塾連絡会議事務局長佐藤勇治氏(東京都)が出席致しました。

## 告別式

12月22日(月)午前11時より12時30分まで光厳山天王院真言宗智山派ご導師による読経の中、約250名ほどの地元名士をはじめ、多くの関係者が見守る中、告別式が厳かに執り行われました。弔辞は、学習塾業界を代表して社団法人 全国学習塾協会会長伊藤政倫氏(三重県)、友人を代表して石塚喜助様が捧呈致しました。

また、式典の最後に、故村社啓介を偲び、石原裕次郎の『赤いハンカチ』と美空ひばりの「川の流れるように」が献奏されました。

なお、告別式には、ホテルに宿泊して出席した山口氏、佐藤氏のほか伊藤政倫氏、私塾ネット関東の研修部長加藤 実氏、社団法人 全国学習塾協会元監事荒木健吾氏が参列致しました。

祭壇と式場に飾られた生花、花環は故村社啓介氏の人脈の広さを示す如く、約80基ほど飾られておりました。学習塾団体からは、社団法人 全国学習塾協会と関東支部、全国学習塾協同組合、NPO 塾全協、全日本私塾教育ネットワーク、私塾ネット関東、埼玉県私塾協同組合、全日本学習塾連絡会議(『教育ネット要覧』編集部)の8基の献花がありました。また、多数の弔電が寄せられ、全国の学習塾仲間からも数多く送られておりました。

## 火葬・本膳

火葬の行われた行田市斎場へは、ご親族、ご友人と共に、伊藤氏、山口氏、佐藤の3名も同行させて頂きました。私たち3名は圭一先生のご配慮で斎場行きバスに、奥様やお孫さん達と一緒にさせて頂きました。啓介先生の突然のご逝去に焦燥され、お疲れのご様子のお様に、私は話しかけました。

「昭和56年(1981)向学館を訪ね、奥様から家内が和文タイプを教えたのを覚えていますか。あの時奥様は、天理教の雑誌の原稿をタイプされていましたが、昨日家を出る時、家内とそのことについて話していたのですよ。」と申し上げますと奥様は「よく覚えています。」とおっしゃって、その時のことを色々と話して下さいました。

火葬場で村社先生のお骨を拾わせて頂いた後、伊藤先生は三重県へ帰って行かれました。山口先生と私は、奥様と圭一先生に勧められるままに「富士見鮎」でのお清めの本膳にご一緒させて頂きました。ご親族、行田市のご友人など、総勢80人近い方々が残られており、村社先生のご人徳を偲ばれる「本膳」でした。

その後、圭一先生の若奥様のお車で熊谷まで送って頂

き、山口先生と私は新幹線で東京駅へ向かいました。

## 3、村社啓介先生と向学館のあゆみ

昭和14年10月23日 村社啓介氏埼玉県行田市に生まれる  
昭和38年5月4日 高橋マチ子と入籍  
昭和39年3月 芝浦工業大学工学部卒業  
昭和40年4月 大宮市にて向学館学習塾を創立  
昭和42年5月 地元の要望で行田市にて向学館学習塾行田教室を開設  
昭和43年3月 大宮教室を閉塾  
6月 全国私塾連盟に入会、同連盟の公認となる  
昭和48年4月 全国私塾連盟厚生部長となる  
8月 向学館学習塾を向学館と改称する  
昭和50年4月 全国私塾連盟研修部長となる  
昭和57年3月 国鉄(当時)行田駅前に向学館駅前教室を開設  
昭和63年11月 社団法人 全国学習塾協会設立に参加、常任理事(財務委員)となる  
平成元年4月 学研CAIシステムを導入、完全個別指導コースを設置  
平成2年9月 行田市平安閣にて向学館創立25周年記念祝賀会を行う  
平成3年 社団法人・全国学習塾協会副理事長となる  
平成7年 社団法人全国学習塾協会副理事長兼専務理事となる  
平成10年4月 塾長を長男村社圭一氏に譲り、理事長職に就く  
平成17年3月 向学館駅前教室を閉鎖  
平成20年4月 向学館代表取締役を村社圭一氏に譲り、退職。相談役となる。  
平成20年12月19日 脳溢血で倒れ、午後5時8分永眠する(享年69歳)

なお地元行田市では、昭和57年に行田ロータリークラブに入会、その後会長職を1年務められる。

合掌





# 私塾ネットセンター 事務局通信

## 事務局長 石川維雪

受験シーズンを迎え、様々な意味で勝負の時期となりました。タミフルの効かないインフルエンザも流行中とのこと、お互い体調には十分留意しましょうね。

さて、前回の報告後も事務局としての今年の大きなテーマの1つである「地方とのコミュニケーション」の活動をしました。今回も、まずはそのご報告から。

札幌進学教室・私塾ネットセンター共催「札幌研修会・懇親会」：11月3日(月・祝)

北海道では久しぶりの私塾ネットの会でした。入江先生の塾舎をお借りして、仲野先生の感動ビデオの作り方、碓先生の新中1獲得のための数学講座を実施。その後、お寿司屋さんの食べ放題。最後はカラオケでドンチャン騒ぎ、盛り上がりました。

エリア中部「湯けむりの会」

11月9日(日)～10日(月)

開湯800年の鹿教湯(かけゆ)温泉で親睦旅行が行われました。ちょうど紅葉真っ盛り。参加人数は少なかったですが、楽しい時間を過ごしてきました。

た。

エリア中国「定例会・研修会」

11月16日(日)

こちらは別のコーナーで詳しくご報告いたしません。

志学塾(八戸)主催「進学相談会」

12月7日(日)

例年行われている会に今年は鈴木理事長と参加してきました。集まるメンバーは毎年ほぼ同じ、地元の私立高校の他に通信制の高校なども参加しています。

夜は高校の先生も交えた親睦会で、いろいろと情報交換をしました。最後はカラオケで皆さんのご自慢ののどを披露しました。

私塾ネットエリアの会以外でも、以下の活動に役員が手分けして参加しました。

11月3日 塾全協主催の研修大会

11月9日 大井町から教育を考える会(OKK)主催「進学相談会」

12月7日 塾団体合同忘年会

1月11日 AJC情報展、塾団体合同新年会

## 閑話休題

## 編集長 谷村志厚

今号の発行日である2月6日は、当地千葉県の公立高校特色化選抜の検査日である。これで募集定員の半数が内定し、2月末の一般入試に備えることになる。ここ十年、首都圏の高校入試制度はころころと変わり、年をおって早期化進んだ。それに歩調を合わせて私立入試が先行する形となり、1月一杯で私立入試は事実上終了する事態となった。千葉県では推薦入試に代わって特色化選抜制度が始まって足かけ7年、この入試制度にもほころびが見え始め、2年後の23年度入試から前・後期2段階選抜制度に移行する。入試の早期化で三学期の教育活動に悪影響を及ぼしていること。内申優先の選抜の結果、高校入学段階での学力に低下が見られること。以上の2点が選抜制度見直しの背景にある問題点だ。新制度では、特色化選抜の理念を継承しつつ(選抜段階で高校の独自性を持たせる)、複数回の受験機会を保障することの2点を改善の理念としている。具体的には2月中旬に5教科の学力検査を実施し、募集定員の約半数を選抜する。これを前期選抜と称する。続いて後期選抜は、3月上旬に5教科から高校の事情に合わせて複数教科を選択して学科選抜を実施するというものだ。もちろん調査書も選抜材料となるのだが、内申のみの選抜が半数を超えていたこれまでの特色化選抜に比べ、学力重視の選抜になる。受験学力で入試を競わせることは塾にとって異論のないところだが、ここ十年、内申を引き上げる指導に力点を置いていた塾にとっては、いくらか方向転換が求められそうである。隣県埼玉の公

立入試制度の変更(関東代表仲野さんの報告に詳しい)に1年遅れての実施だが、首都圏で動き出した入試制度の見直しは、今後各地に飛び火しそうである。1月25日、エリア関東恒例のニューイヤーパーティーが横浜中華街で開かれた。この会の一番のポイントは家族を交えてのファミリーパーティーという点だ。塾仲間の集会という点でも休日が中心となる。その分家族サービスを犠牲にすることが多く、せめてもの罪滅ぼし、あるいは免罪符とでもいうものである。今年で4年目の企画であるが、今年はゲーム、クイズ等のイベント企画一切を仲野・渡辺両先生にゆだね、すっかりお客様気分を味わった。さすがに「遊び人」のお二人、人を楽しませることに長けていらっしゃる。面白いクイズ・ゲームやパフォーマンスに「呑む」時を忘れた。子どもたちと接するのが我々の仕事、遊び心も塾運営の大きな要素である。パーティに新入会の中村明雄先生(横浜市緑区・青葉学院)が同席された。初めての会の活動参加がこれであったので、戸惑われたことである。気に入っていただいたようなので安心した。新入会員といえば、千葉縣市川の塾アルゴ亀山直人先生が入会された。小生の古い友人で、千葉学習塾協同組合の副理事長を務められている。千葉の組合(JAC)といえば、松浦理事長以下3名の副理事長全員が私塾ネットの仲間となった。活発な活動でつとに知られるJACだが、その主要メンバーである彼らだから、私塾ネットがつかの間の止まり木として、羽を休めていただく場所となれば幸だ。

## 賛助会員一覧(順不同)

<b>関東国際高等学校</b>	<b>村山 ヲドヲ先生</b>
東京都渋谷区本町3-2-2	03-3376-2244
<b>江戸川学園取手中学高等学校</b>	<b>竹澤 賢司先生</b>
茨城県取手市西1-37-1	0297-74-8771
<b>十文字中学高等学校</b>	<b>卯木 幸男先生</b>
東京都豊島区北大塚1-10-33	03-3918-0511
<b>東洋高等学校</b>	<b>野間 一夫先生</b>
東京都千代田区三崎町1-4-16	03-3291-3824
<b>桜丘中学高等学校</b>	<b>品田 健先生</b>
東京都北区滝野川1-51-12	03-3910-6161
<b>聖徳大学附属中高等学校</b>	<b>川並 芳純先生</b>
千葉県松戸市秋山600	047-392-8111
<b>麹町学園女子中高等学校</b>	<b>大野 博人先生</b>
東京都千代田区麹町3-8	03-3263-3014
<b>春日部共栄中学</b>	<b>宇野 禎弘先生</b>
埼玉県春日部市上大増新田213	048-737-7611
<b>大成高等学校</b>	<b>森 保先生</b>
東京都三鷹市上連雀6-7-5	0422-43-3196
<b>東京学園高等学校</b>	<b>須藤 勉先生</b>
東京都目黒区下目黒6-12-25	03-3711-6641
<b>東京立正中学高等学校</b>	<b>藤井 教戒先生</b>
東京都杉並区堀ノ内2-41-15	03-3312-1111
<b>八雲学園中学高等学校</b>	<b>横山 孝治先生</b>
東京都目黒区八雲 2-14-1	03-3717-1196
<b>関東第一高等学校</b>	<b>副田 康孝先生</b>
東京都江戸川区松島2-10-11	03-3653-1541
<b>武蔵野中学高等学校</b>	<b>丹野 秀彦先生</b>
東京都北区西ヶ原4-56-20	03-3910-0151
<b>神田学園中学高等学校</b>	<b>齋藤 元治先生</b>
東京都千代田区猿楽町2-3-6	03-3291-2447
<b>和洋国府台女子中学高等学校</b>	<b>太田 陽太郎先生</b>
千葉県市川市国分4-20-1	047-371-1120
<b>東京文化中学高等学校</b>	<b>上前 善勝先生</b>
東京都中野区本町6-38-1	03-3381-0196
<b>文京学院大学女子中学高等学校</b>	<b>水上 茂先生</b>
東京都文京区本駒込6-18-3	03-3946-5301
<b>京北学園中学高等学校</b>	<b>実方 隆志先生</b>
東京都文京区白山5-28-25	03-3941-6253
<b>大森学園高等学校</b>	<b>河嶋 正先生</b>
東京都大田区大森3-2-12	03-3762-7336

<b>東京成徳大学中学高等学校</b>	<b>増澤 文徳先生</b>
東京都北区豊島8-26-9	03-3911-2786
<b>日本工業大学駒場中学高等学校</b>	<b>河村 文夫先生</b>
東京都目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130
<b>青稜中学高等学校</b>	<b>多々良明典先生</b>
東京都品川区二葉1-6-6	03-3782-1502
<b>東京女子学園</b>	<b>実吉 幹夫先生</b>
東京都港区芝4-1-30	03-3451-6523
<b>駒込中学高等学校</b>	<b>河合 孝允先生</b>
東京都文京区千駄木5-6-25	03-3828-4141
<b>爱国中学高等学校</b>	<b>高橋 英夫先生</b>
東京都江戸川区西小岩5-7-1	03-3658-4111
<b>日本橋女学館中学高等学校</b>	<b>羽田野 敦先生</b>
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6	03-3662-2507
<b>安田学園中学高等学校</b>	<b>福谷 隆芳先生</b>
東京都墨田区横綱2-2-25	03-3624-2666
<b>多摩大学目黒中学高等学校</b>	<b>福本 明男先生</b>
東京都目黒区下目黒4-10-24	03-3714-2661
<b>科学技術学園高等学校</b>	<b>高塚 聡先生</b>
東京都世田谷区成城1-11-1	03-5494-7711
<b>日本音楽高等学校</b>	<b>中野 道代先生</b>
東京都品川区豊町2-16-12	03-3786-1711
<b>立正中学高等学校</b>	<b>今田 正利先生</b>
東京都品川区大崎4-2-16	03-3492-4416
<b>上野学園中学高等学校</b>	<b>高橋 公美子先生</b>
東京都台東区東上野4-24-12	03-3842-1021
<b>二松学舎大学付属高等学校</b>	<b>木村 誠次先生</b>
東京都千代田区九段南2-1-32	03-3261-9288
<b>村田女子高等学校</b>	<b>武 雅祐先生</b>
<b>村田学園小石川女子中学校</b>	
東京都文京区本駒込2-29-1	03-5940-4187
<b>自由学園(中等部・高等部)</b>	<b>堀田 純一先生</b>
東京都東久留米市学園町1-8-15	042-422-3111
<b>帝京中学高等学校</b>	<b>金野 眞行先生</b>
東京都板橋区稲荷台27-1	03-3963-4711
<b>(株)パイロットコーポレーション</b>	<b>辻 豊様</b>
東京都中央区京橋2-6-21	03-3538-3782
<b>(株)教育企画ティーファイブ</b>	<b>山田 孝幸様</b>
東京都品川区北品川1-22-17-104	03-5479-7061
<b>(株)創開コミュニティー</b>	<b>小林 和光様</b>
千葉県柏市柏2-7-22-202	04-7164-6511
<b>ギガビジョン株式会社</b>	<b>櫻井 淳二様</b>
東京都千代田区九段北1-4-5	03-3237-5861